

## 小児心身症の予防

—心身症外来受診者の両親へのアンケートから—

- 1) 心身症小児をめぐる家族関係
- 2) 心身症小児への両親のかかわり
- 3) 心身症小児の両親が関係機関へ望むこと

木下敏子

要約：小児の心身症を予防するにはどうしたら良いかを知るために平成3年1月から平成5年12月までに心身症外来（家族相談を含む）を受診した初診患者の両親にアンケート調査を行った。有効発送数は父親95，母親102であり，有効回答率は父親38（40.0%），母親54（52.9%）であった。回答結果から登校拒否，チック・夜尿，摂食障害，その他の4群にわけて(1)家族関係，(2)両親のかかわり方を比較検討した。(3)関係機関に望むことでは，設備も含めた行政機関の充実や教育の改善を望む声が多かった。

見出し語：心身症・予防・アンケート調査・家族関係

研究目的：小児の心身症を予防するにはどうしたらよいかを知るために心身症小児の両親に最終頁のようなアンケート調査を施行した。

対象：平成3年1月から平成5年12月までに，佼成病院小児科心身症外来（家族相談を含む）を訪れた初診患者の両親を対象とした。ただし，初診時21歳以上の患者と受診後すぐ精神科に依頼した患者の両親を対象から除外した。

結果：アンケートを108家族206名（父子家庭1，母子家庭9，兄弟例2）に発送し，転居先不明を除いた有効発送数は父親95，母親102であり有効回答率は父親38（40.0%），母親54（52.9%）であった。（表1）

相談内容から回答結果を登校拒否，チック・夜

尿，摂食障害，その他，の4群にわけて比較検討した（表2）。回答者の職業（表3）は父親では会社員，自営業が多く，母親は主婦が最も多かった。疾患別では登校拒否の父親に自営業が多い。年齢（表4）は両親ともに40代が60%でもっとも多く，ついで50代，30代の順であるが，摂食障害では年齢が高い傾向にあり，チック・夜尿では低い傾向にあった。これは子供の年齢（表5）が摂食障害では16歳以上が多く，チック・夜尿では6～11歳と低年齢が多いのに比例している。兄弟順位（表6）では2人兄弟の第1子が27.8%，第2子が24.1%，ついで3人兄弟の第1子，1人っ子の順であった。家族形態（表7）では，核家族が64.8%，大家族が31.2%であった。その中でチック

表 1 回答数・回答率

	発送数	有効発送数	回答数	回答率
父親	101	95	38	40.0
母親	109	102	54	52.9
合計	210	197	92	46.7

表 2 父母別アンケートによる疾患数

	父親	母親	合計
登校拒否	9 (23.7)	16 (29.6)	25
チック・夜尿	7 (18.4)	9 (16.7)	16
摂食障害	9 (23.7)	8 (14.8)	17
その他	13 (34.2)	21 (38.9)	34
合計	38 (100.0)	54 (100.0)	92

表 3 各疾患別の父母の職業  
[父親]

	会社員	自営業	公務員	教師	主婦	その他	合計
登校拒否	4 (44.4)	4 (44.4)	1 (11.2)	0	0	0	9 (100.0)
チック・夜尿	6 (85.7)	1 (14.3)	0	0	0	0	7 (100.0)
摂食障害	5 (55.6)	1 (11.1)	1 (11.1)	1 (11.1)	0	1 (11.1)	9 (100.0)
その他	11 (84.6)	2 (15.4)	0	0	0	0	13 (100.0)
合計	26 (68.4)	8 (21.1)	2 (5.3)	1 (2.6)	0	1 (2.6)	38 (100.0)

[母親]

	会社員	自営業	公務員	教師	主婦	その他	合計
登校拒否	1 (6.2)	0	0	0	8 (50.0)	7 (43.8)	16 (100.0)
チック・夜尿	1 (11.1)	1 (11.1)	0	0	5 (55.6)	2 (22.2)	9 (100.0)
摂食障害	1 (12.5)	0	1 (12.5)	0	4 (50.0)	2 (25.0)	8 (100.0)
その他	2 (9.5)	1 (4.8)	1 (4.8)	0	11 (52.4)	6 (28.5)	21 (100.0)
合計	5 (9.2)	2 (3.7)	2 (5.3)	0	28 (51.9)	17 (31.5)	54 (100.0)

表 4 各疾患別の父母の年代

[父親]

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
登校拒否	0	0	6 (66.7)	3 (33.3)	0	9 (100.0)
チック・夜尿	0	1 (14.3)	6 (85.7)	0	0	7 (100.0)
摂食障害	0	0	3 (33.3)	5 (55.6)	1 (11.1)	9 (100.0)
その他	0	1 (7.7)	9 (69.2)	3 (23.1)	0	13 (100.0)
合計	0	2 (5.3)	24 (63.2)	11 (28.9)	1 (2.6)	38 (100.0)

[母親]

	20代	30代	40代	50代	60代	合計
登校拒否	0	2 (12.5)	12 (75.0)	2 (12.5)	0	16 (100.0)
チック・夜尿	2 (22.3)	3 (33.3)	4 (44.4)	0	0	9 (100.0)
摂食障害	0	2 (25.0)	4 (50.0)	2 (25.0)	0	8 (100.0)
その他	2 (9.5)	1 (4.8)	15 (71.4)	3 (14.3)	0	21 (100.0)
合計	4 (7.4)	8 (14.8)	35 (64.8)	7 (13.0)	0	54 (100.0)

表 5 各疾患別の患者の年齢 (母親アンケートによる)

[男子]

	6歳未満	6～11	12～15	16歳以上	合計
登校拒否	0	3 (42.9)	3 (42.9)	1 (14.2)	7 (100.0)
チック・夜尿	3 (50.0)	2 (33.3)	1 (16.7)	0	6 (100.0)
摂食障害	0	0	0	0	0 (100.0)
その他	1 (11.2)	3 (33.3)	3 (33.3)	2 (22.2)	9 (100.0)

[女子]

	6歳未満	6～11	12～15	16歳以上	合計
登校拒否	0	1 (11.1)	6 (66.7)	2 (22.2)	9 (100.0)
チック・夜尿	0	2 (66.7)	0	1 (33.3)	3 (100.0)
摂食障害	1 (12.5)	0	3 (37.5)	4 (50.0)	8 (100.0)
その他	1 (8.3)	2 (16.7)	7 (58.3)	2 (16.7)	12 (100.0)

表 6 アンケートによる疾患名と兄弟順位の関係 (母親アンケートによる)

	1/1	1/2	2/2	1/3	2/3	3/3	1/4	3/4	4/4	6/6	合計
登校拒否	0	4 (25.0)	5 (31.4)	1 (6.2)	2 (12.5)	0	1 (6.2)	0	2 (12.5)	1 (6.2)	16 (100.0)
チック・夜尿	1 (11.1)	4 (44.4)	2 (22.3)	1 (11.1)	1 (11.1)	0	0	0	0	0	9 (100.0)
摂食障害	1 (12.5)	2 (25.0)	3 (37.5)	1 (12.5)	1 (12.5)	0	0	0	0	0	8 (100.0)
その他	3 (14.3)	5 (23.8)	3 (14.3)	3 (14.3)	1 (4.8)	5 (23.8)	0	1 (4.8)	0	0	21 (100.0)
合計	5 (9.3)	15 (27.8)	13 (24.1)	6 (11.1)	5 (9.3)	5 (9.3)	1 (1.8)	1 (1.8)	2 (3.7)	1 (1.8)	54 (100.0)

表 7 各疾患別の患者の核家族率 (母親アンケートによる)

	核家族	大家族	合計
登校拒否	11 (68.8)	5 (31.2)	16 (100.0)
チック・夜尿	2 (22.2)	7 (77.8)	9 (100.0)
摂食障害	7 (87.5)	1 (12.5)	8 (100.0)
その他	15 (71.4)	6 (28.6)	21 (100.0)
合計	35 (64.8)	19 (35.2)	54 (100.0)

ク・夜尿の大家族の頻度が77.8%と高いのがきわだっていた。

### 1) 心身症小児をめぐる家族関係

心身症小児の家族関係を知るためにアンケートの21番から29番までの質問を行った。これらの回答にあらかじめ用意した点数を加味したレーダーチャートをグラフに示したものを図1から図5までに示した。

心身症全体(図1)では④夫婦間、⑤患者と父親、⑥患者と母親の項目で父親と母親の認識にずれがあり、父親は自分達の夫婦関係は良好であり、患者と自分、患者と妻の関係も良いと思っている。それに引き換え母親は夫婦関係もそう良好とは思っておらず、自分と患者の関係も夫と患者の関係もよいとは思っていない。しかし③自分達の両親の夫婦関係より④自分達夫婦の関係の方が良いと思っている。

疾患別でみると登校拒否(図2)では、母親は④自分達の夫婦関係と⑤夫と患者の関係が特に悪いと回答している。父親はそれらの項目は良好な関係にあると回答しており、両親間に認識のずれがあることが明らかとなった。

チック・夜尿(図3)では父親は自分の父親と母親は自分の母親とあまりうまくいっていないという関係にあるが、現在の家族に関しては両親間にひどいずれはなかった。

摂食障害(図4)での特徴は父親も母親も自分の両親の夫婦仲が悪く、患者の兄弟関係も悪いと回答していることである。母親は夫も自分も患者とよい関係にないと回答しているが、父親は自分も妻も患者と悪い関係ではないと回答しており、両親の認識にギャップが見られた。

次に52番から62番までの質問で両親と子供、学校、祖父母との関係について質問し、その結果をレーダーチャートにして、図6～図10に示した。

心身症全体(図6)では55番の「学校の先生と話し合いますか」という質問に関して、話し合いが少ないという回答が目だった。また父親は子供のことを妻に任せていると言う回答が多く、妻は夫に子供の事を任せていないと答えており、夫婦の答えは一致していた。登校拒否(図7)ではこれと同じ傾向にあったが、52番の「子供のことに夫夫婦でよく話し合うかどうか」、56番の「夫婦の考えが一致しているかどうか」に関して、父親は両項目とも「そう」と思っているのに母親は「ちがう」と思っているというずれがあった。祖父母との関係では母親が子供を可愛がると思っているが父親はそうでもないと思っている。しかし祖父母へ相談するかどうかでは父親は自分の祖父母にも相手の祖父母にも相談すると答えているが、母親は両方の祖父母に相談していないと答えている。干渉に関する項目で祖父母から意見されることはほとんどないと両親が一致して答えている。それに反してチック・夜尿(図8)の母親は子供のことで自分の両親に相談することが多く、相手の両親から意見されることが多いと思っている。摂食障害(図9)では父親が子供のことは妻に任せており、母親も夫にはほとんど任せていないという回答が多い。子供のことで祖父母が叱ることが多いかどうかに関しては両親間にずれがみられた。

### 2) 心身症小児への両親のかかわり

両親が子供とどう関わっているかを知る目的で30番から51番までの質問をし同様にレーダーチャ

図 2

登校拒否

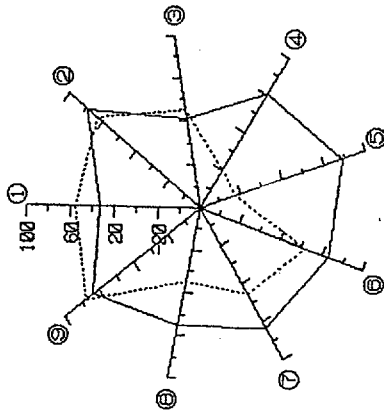


図 3

チック・夜尿

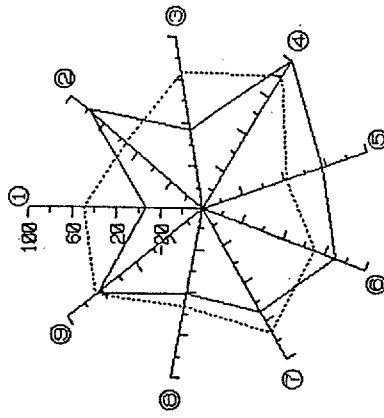


図 1

心身症全体

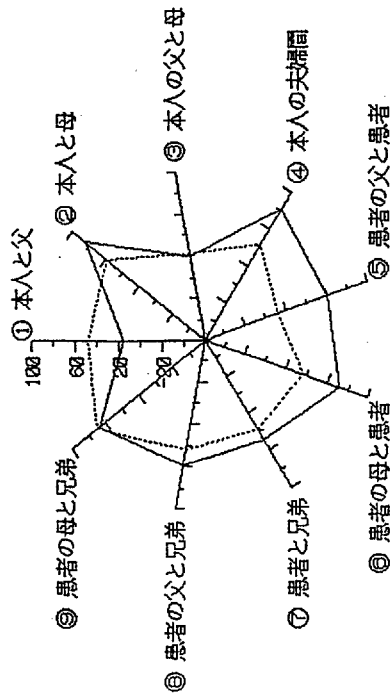


図 4

摂食障害

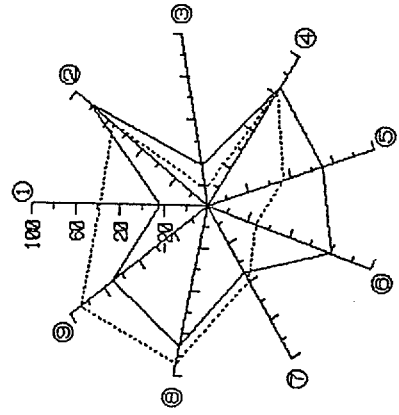


図 5

その他

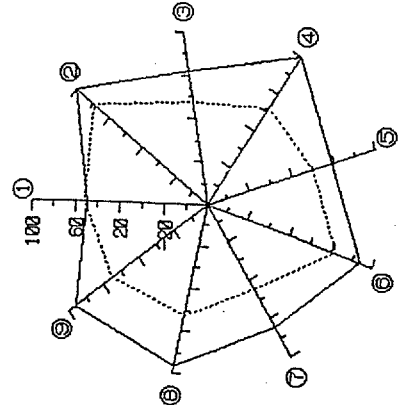
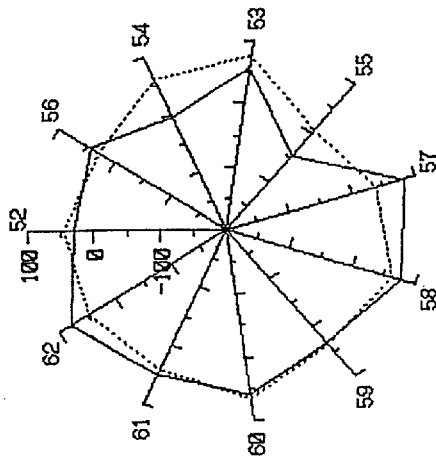


図 6

心身症全般

52:55:対父母, 57:62:対祖父母,



— 父親 ..... 母親

図 7

登校拒否

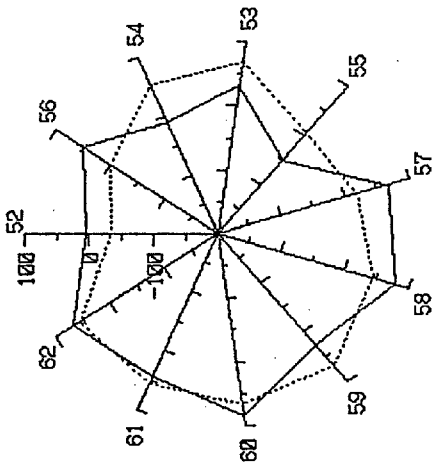


図 9

摂食障害

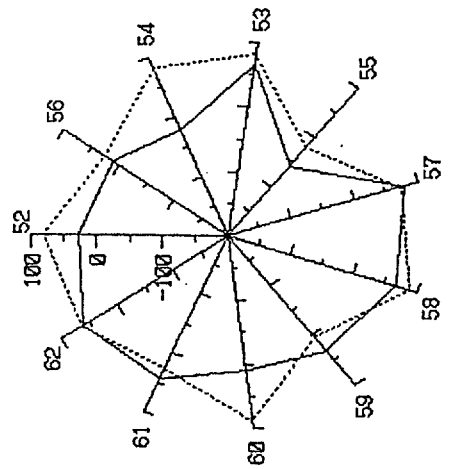


図 8

チック・夜尿

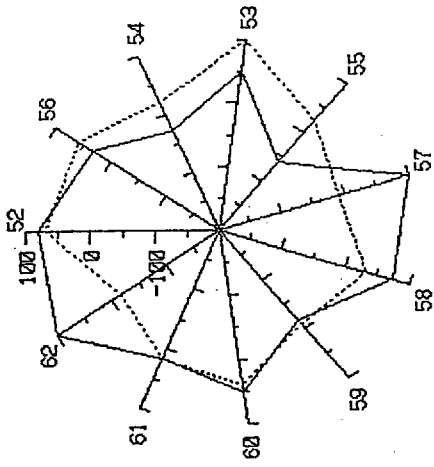


図 10

その他

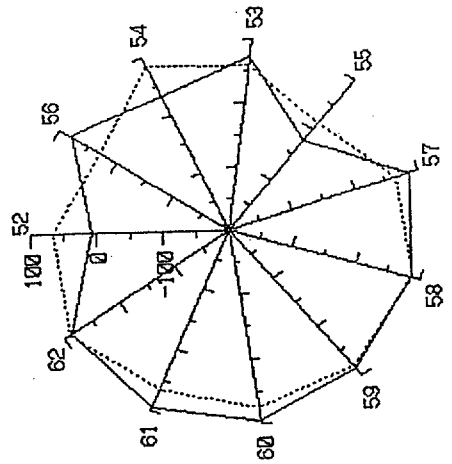


図 1 2

登校拒否

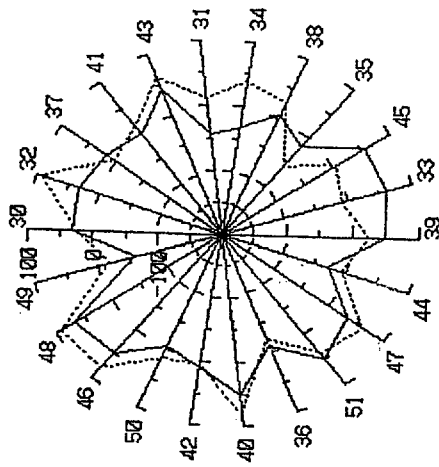


図 1 3

チック・夜尿

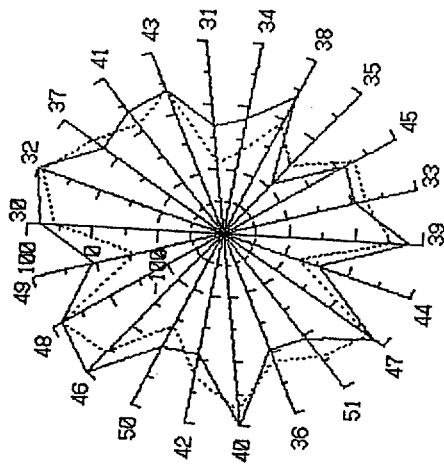


図 1 4

摂食障害

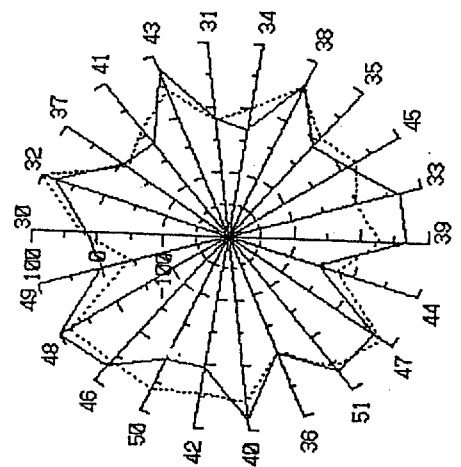


図 1 5

その他

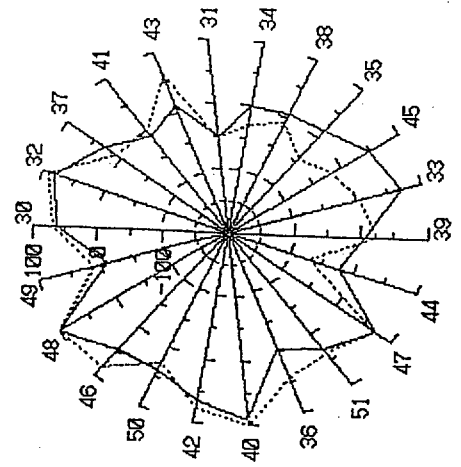
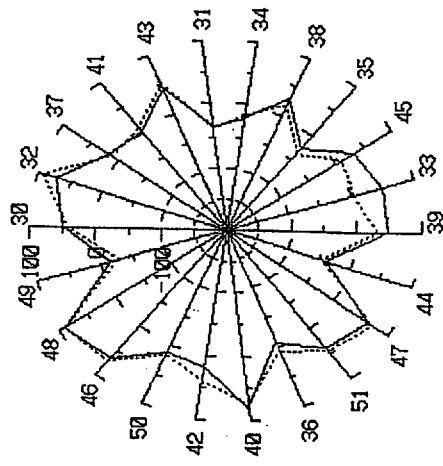


図 1 1

心身症全般

30~43:良い関係, 31~38:干渉, 45~48:不安  
 33~51:拒否, 36~50:しつけ, 46~49:教育.



— 父親 …… 母親



ートを作って図示した(図11~15)。

心身症全体(図11)で目だったことは44番「悪い成績を取った時はもっと頑張るように言う」と49番「優しさは自然に身につくものと思っている」という答えが多かった。登校拒否(図12)では特にその傾向が強く、それに加えて父親の干渉「きちんとしなさいと何度も言う」、「親のいいつけを聞くように厳しく言う」などの項目が多い。その反面で「家族にルールがない」「決まった小遣いを与えていない」と両親が答えており、育児や教育に一貫性が欠けていることがわかった。また「子供に手伝いをさせていない」という答えも多かった。

チック・夜尿(図13)では年齢が低いのに母親が「きちんとしなさい」と何度も言ったり、「親のいいつけを聞くように厳しく言う」など干渉が多い。また「家族にルールがない」という答えが父親に多い。「決まった小遣いを与えていない」「子供に手伝いをさせていない」は登校拒否と同じであるが「子供が悪いことをすると叩く」という答えはチック・夜尿の群に特徴的であった。35番「私がいないと将来子供が困るだろう」という答えが両親特に父親がそう思っていることがわかった。

摂食障害(図14)で30番「子供と遊ぶのが好きだ」という項目が低いのも対象が16歳以上であることを考えれば当然かも知れないが、37番「子供をほめる」41番「いつも子供の意見や考えを聞く」という項目も低く、35番の将来への不安も高かった。

### 3) 心身症小児の両親が関係機関に望むこと

関係機関に望むことを63~70で質問した。

これは重複回答が可能なため、似たような意見をまとめて有効回答数に対する%を出し、%の高い回答をおもに記載し、その具体例や頻度は低くても参考になる意見を後に列記した。

### 63. 心の問題が起きた時に行政機関に何を望みますか？

相談できる施設の増設	33.9%
親身の相談	23.9%
相談機関の情報、適切なアドバイス	20.3%
カウンセラーの充実	13.6%

意見：

- 健康回復者のための高等学校
- 24時間オープンなデイケアセンター
- 同じ体験をした者同士が話し合える場
- 官民一体となった施設
- 電話相談できる施設とやさしく相談に乗ってくれる人
- 土曜日も日曜日も相談に乗って欲しい
- 地方の場合、どこに相談してよいかわからない。相談する場が遠い。
- 子供を一生懸命育ててきた親の努力を否定したり非難する指導は親を暗い気分にするのでやめてほしい。
- 専門知識のあるカウンセラーをおいて欲しい。
- 校長経験者が十分なトレーニングを受けずに相談者になるのを止めてほしい。

### 64. 子供達を心も身体も健康に育てるには行政に何を望みますか？

子供達のがびのびできる環境づくり	24.2%
ゆとりある教育	19.4%
学校以外の勉強の場などの施設	14.5%

学歴社会の是正 …………… 14.5%

意見：

- 精神面の相談ができる施設を増設
- 学校のカウンセラーを置くようなシステムを作る
- 学校の授業の進み方を遅くする
- 受験体制を改善・教育の多様化
- 教職員の増員と質の向上
- 身障教室に専門の先生をおく
- 中高生が安心して遊べる場
- 自然を残し運動場の確保
- 公園の増設，親子であつまる場
- 思いやりの心を育てる・やさしさを教育
- マスコミ・週刊誌の内容をチェック
- 将来の子供を育てるために予算をけちらさない。
- 24時間コンビニエンスストアの廃止  
タバコ・酒の自動販売機の廃止，子供向高級品などをメーカーに販売させない

65. 心の問題が起きた時医療機関に何を望みますか？

心身両面の指導とアドバイス …… 26.0%

話を聞いて欲しい …………… 21.9%

家族ぐるみで相談に乗ってくれる施設 16.4%

診療小児科を増設して専門医を置く 11.0%

意見：

- 佼成病院のように小児科で心理相談ができる病院を増やしてほしい
- カウンセリングに保険を適応してほしい
- 心とからだを総合的にみてほしい  
食事指導・カウンセリング・医療ができる  
病院の情報がほしい

●気軽に相談できる場とカウンセラー

●参考になる類似事例を教えて欲しい

●本人と家族がそれぞれのグループになって話ができる場

●家族だけでも相談に乗ってくれる体制

●心の問題を扱っている専門医療機関の情報

●各都市の主要病院に専門医を置いて欲しい

66. 子供達を心身ともに健康に育てるために医療機関に何を望みますか？

気軽に相談できる医療機関の増設と充実 37.7%

話を聞いて欲しい …………… 17.0%

意見：

●専門医がゆとりを持って面接できる態勢

●単に薬だけでなくカウンセリングできる医師の増員

●子供自身が受診を喜べるような病院

●精神的な不安を取り除くカウンセリングができる子供専門の機関

●アドバイザー研修を保健所など協力して行う。

●子供の心配事を聞ける保健婦さんのような人を病院で育てて学校へ配属する

●健康についての本を出版

●定期検診

●現状の小中学校のカリキュラムのチェックを定期的にしてほしい

67. 心の問題が起きた時に医師に何を望みますか  
親身の対応（適切な助言・ゆとりある診療）  
…………… 63.8%

意見：

●原因究明と対策

●本人と家族にアドバイス・親のケア

- 家族の話を時間をかけて聞く
- 治療方針を親切に教える
- 内服する薬の説明をよくする
- 子供の話を聞く（親にも言えないような）
- 医師の研修（解決方法を知らない医師が多い）
- グループのアドバイザーになってほしい
- データだけでなく医師の直感を働かせて欲しい
- 東洋医学を積極的に取り入れた治療（気功、太極拳、ヨガなど）

68. 子供達を心も身体も健康に育てるために医師に何を望みますか？

相談相手になってほしい …………… 49.1%  
 子供のための医療をしてほしい … 14.5%

意見：

- 最新の心理学を常に学んでほしい
- 患者もカルテを持つことがもっと一般的になるとよい
- 身体全体をみてほしい
- 医師の指導
- 潜在意識が引き出せる対話手法を教えて欲しい
- 心身症の専門医を増やして欲しい
- おもいやり
- ひとりの医師に定期的に診察してもらおう
- 投薬だけでなく本人のためになる話

学校への要望はあまり多いので主な項目だけを記載します。

69. 家族に心の問題が起こったときに、学校に何を望みますか？

子供の対応へ協力 …………… 28.4%（摂食障害）

親と子の相談を受け止める 25.4%（登校拒否）

連絡がとれ易い状況 …………… 9.0%（登校拒否）

70. 子供達を心も身体も健康に育てるために学校に何を望みますか？

個性を尊重した教育 …………… 34.0%

教師の人格の成長 …………… 14.0%

早期の対応・細かい気配り …………… 10.6%

考案：

アンケート結果を登校拒否、チック・夜尿、摂食障害の3群に分けて若干の考案を試みたい。

今回のアンケートからみた登校拒否の特徴は父親に自営業が多く、登校拒否の家族関係（図2）で自分達の夫婦関係と夫と患者の関係に関して両親間認識のずれがあり、52番子供のことを夫婦で話す56番夫婦の考えが一致しているという項目にも回答にずれがあった。すなわち登校拒否の特徴の一つは両親間の認識のずれと言えるであろう。そして54番の回答で、子供は母親まかせであることが明らかなであり、両親間の認識のずれはこんなところにも一因があると思われる。55番では学校の先生と話していないという回答が多く、69番の学校への要望の中で「連絡がとれやすい状況」を希望するのも、もっともなことである。子供との関わりでは44番「悪い成績をとった時はもっと頑張るように言う」が登校拒否に頻度が高く、それに加えて父親の干渉「きちんとしなさいと何度も言う」「親のいいつけを聞くように厳しく言う」などの項目が多い。その反面で「家族にルールがない」「決まった小遣いを与えていない」「子供に手伝いをさせていない」など育児・しつけが学問中心となり、家庭教育がおろそかにされていることがわかった。その一因としては学歴社会の中

で子供の幸せを願う親が学問中心の子育をせざるを得ない状況にあるのも理解できる。そうであるからこそ行政へ「学歴偏重を是正して欲しい」という要望が多いのも、もっともなことである。

チック・夜尿の特徴は大家族が多いことである。そこで57番子供のことで祖父母に相談することが多くなり、舅、姑から意見されることも多くなる。しつけに関しては母親が「きちんとしなさい」と何度も言ったり、「親のいいつけを聞くように厳しく言う」など干渉が多い。また父親が「子供が悪いことをすると叩く」と答えていたのが特徴であった。子供を愛するが故に過干渉になるというチックのパターンがここにも見られた。

摂食障害ではアンケート回答数が父親9、母親8であり、4群中唯一父親の回答数が多かった。当院で今診ている摂食障害は重症患者が多く父親が関わる段階に来ていると言うことと、入院する症例が多いので医師と父親のレポートが付いているからとも考えられる。

摂食障害の父親は自分の父親と良い関係になく自分の両親の夫婦仲は非常に悪い。しかし自分達夫婦の仲は良いと回答している。患者との関係で

母親は自分も父親も患者と良い関係でないと回答しており、父親は自分も妻も患者と悪い関係ではないと回答していて、両親の認識にずれがある。また両親とも、患者は兄弟と仲が悪いと答えている。30番以後の回答では「子供と一緒に遊ぶのが好きだ」という項目の点数が低いのは対象の年齢が16歳以上であることを考えれば当然かも知れないが37番「子供をほめる」41番「いつも子供の意見や考えを聞く」という項目も低く、35番の「私がいなくて子供が将来困るだろう」という不安も高かった。31番34の干渉も強く、その上に悪い成績を取った時はもっと頑張るように言われている。すなわち肯定的な働きかけが少ない割に干渉、不安が強いので、両親の患者への働きかけは患者側からみると否定的なメッセージと取られ易く、自己信頼を形成しにくくしており対人関係への抵抗力が弱まり、心身症を発症しやすくなるを考える。

以上、佼成病院小児科の心身症外来（家族相談を含む）を受診した初診患者の両親に行ったアンケート結果を報告し若干の考案を行った。

## Prevention of Psychosomatic Condition in Children

— From a Survey of Parents of children attending  
an outpatient clinic for psychosomatic condition —

- 1) Family relationships assoceated with children with psychosomatic condition.
- 2) Reactions of parents with children psychosomatic condition.
- 3) What parents of children with psychsomatic condition expect from support services.

### Abstract

In order to determine how to prevent psychosomatic in children, a survey of parents seeking advice for the first time at an outpatient clinic for psychosomatic conditions (including family couseling) was conducted between January 1991 and December 1993. Of the 95 fathers and 102 mothers who sought assistance during the survey period, 38 fathers and 54 mothers particepated, giving an effective response rate of 40% and 52.9% respectively. Responses were divided into 4 groups : 1. school refusal, 2. tics/enuresis, 3. eating disorders, and 4. others, and compared according to 1. family relationships 2. reaction of parents.

Most parents hoped for the totalization of services as well as provided by public institutions and improvement in education.

## アンケート

あなたのことについてお尋ねします

- 1、 年齢 (20台・30台・40台・50台・60以上)
- 2、 性別 (男・女)
- 3、 職業 ( )
- 4、 出身地 ( )
- 5、 最終学歴 (中卒・高卒・高校中退・短大卒・大卒・大学中退・専門学校卒・  
専門学校中退・その他)

お子さんのことについてお尋ねします

- 6、 佼成病院小児科には、どっいうことでご相談にいらっしゃいましたか?  
( )
- 7、 佼成病院小児科に相談に見えた時のお子さんの年齢 ( ) 歳と性別 (男・女)
- 8、 その事に気付いたのはこのお子さんが何歳の時でしたか? ( ) 歳
- 9、 兄弟の年齢と性別
  - 1、 ( ) 才 (男・女)
  - 2、 ( ) 才 (男・女)
  - 3、 ( ) 才 (男・女)
  - 4、 ( ) 才 (男・女)
  - 5、 ( ) 才 (男・女)
- 10、 お子さんが今までにかかった病気  
( ) さんが ( ) 才の時 ( ) にかかった。

先天性心疾患・川崎病・精神運動発達遅滞・糖尿病・気管支喘息  
髄膜炎・事故・その他

- 11、 お子さんは最近病院にかかったことがありますか? はい・いいえ  
かかったことがある方は、誰がいつ頃何の病気でしたか?  
( ) が ( ) 頃 ( ) で

お子さんが佼成病院小児科に相談にいらっしゃった頃の事についておききします

- 12、 核家族でしたか? はい・いいえ  
はいの場合
- 13、 一緒に生活していたのは、お子さんの (両親、母親だけ、父親だけ)  
いいえの場合
- 14、 一緒に生活していたのは、お子さんの {父親・母親・養理の父親・養理の母親  
養父母・おじ・おば・いとこ・使用人・その他 ( ) }
- 15、 そのお子さんは何番目ですか? ( ) 人兄弟の ( ) 番目
- 16、 そのお子さんを育てたのは主に誰ですか? 母親・祖母・その他 ( )

お父さんやお母さんのご自身のことについてお尋ねします

- 17、あなたは子供の頃、核家族でしたか？ はい・いいえ
- 18、あなたは子供頃、実の両親と生活していましたか？ はい・いいえ  
いいえの場合 父親だけ・母親だけ・養理の父親・養理の母親・養父母  
その他（ ）
- 19、あなたは兄弟のなかで何番目でしたか？ ( ) 人兄弟の ( ) 番目
- 20、あなたを主に育ててくださったのは誰ですか？ 母親・祖母・その他 ( )
- 21、あなたとお父さんとの関係は良かった。 そう・ちがう・どちらともいえない
- 22、あなたとお母さんとの関係は良かった。 そう・ちがう・どちらともいえない
- 23、あなたのお父さんとお母さんの関係は良かった。 そう・ちがう・どちらともいえない
- 24、相談にいらっしゃった頃は夫または妻と関係は良かった。 そう・ちがう・どちらともいえない
- 25、あなたとその子との関係は良かった。 そう・ちがう・どちらともいえない
- 26、あなたの夫または妻とその子との関係は良かった。 そう・ちがう・どちらともいえない
- 27、その子と他の兄弟との関係は良かった。 そう・ちがう・どちらともいえない
- 28、あなたとその子以外の兄弟との関係は良かった。 そう・ちがう・どちらともいえない
- 29、あなたの夫または妻とその子以外の兄弟との関係は良かった。 そう・ちがう・どちらともいえない

\*以下の質問には、育児方針についての質問です。

佼成病院小児科に相談に来ることになったお子さんを中心にして、相談に来ることになった頃のことを思いだしてお答え下さい。

- 30、子どもと一緒に遊ぶのが好きだ。 そう・ちがう・どちらともいえない
- 31、子どもに、きちんとしなさいとか何回も言う。 そう・ちがう・どちらともいえない
- 32、子どもの身体のことを心配だ。 そう・ちがう・どちらともいえない
- 33、子どもに頼まれたことをついで忘れてしまうことがある。 そう・ちがう・どちらともいえない
- 34、子どもに親の言いつけをきくように厳しく言う。 そう・ちがう・どちらともいえない
- 35、私がいないと、子どもは将来困るだろうと思う。 そう・ちがう・どちらともいえない
- 36、家族のルールがある。 そう・ちがう・どちらともいえない
- 37、よく子どもをほめる。 そう・ちがう・どちらともいえない
- 38、いつも勉強しなさいといっている。 そう・ちがう・どちらともいえない

- |   |                  |
|---|------------------|
| 39、子どもに向かって、バカとかグズとかのろまとか言うことが多い。       | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 40、子どもが悪いことをした時は、言って聞かせる。               | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 41、いつも子どもの考えや意見を聞く。                     | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 42、子どもにはお手伝いをさせている。                     | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 43、子どもが自分の思いどおりにならなくても好きである。            | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 44、悪い成績をとったときには、もっと頑張るように言う。            | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 45、子どもになにか起こるといけないからあまり遠くに行かせないようにしている。 | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 46、思いやりについて教えるように心がけている。                | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 47、子どものことが信じられない。                       | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 48、ものを盗んではいけない、人を傷つけてはいけないということを教えている。  | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 49、やさしさは自然に身につくものと思っている。                | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 50、子どもには決まったお小遣いを与えている。                 | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 51、子どもが悪いことをすると、叩くことが多い。                | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 52、子どものことについて夫婦でよく話し合う。                 | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 53、子どもと楽しむより夫婦の趣味を優先することが多い。            | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 54、子どものことは夫または妻に任せている。                  | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 55、子どものことについて、学校の先生とよく話し合う。             | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 56、子どもについて夫婦の考えはだいたい一致している。             | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 57、子どものことで、自分の祖父母に相談することが多い。            | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 58、子どものことで、相手の祖父母に相談することが多い。            | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 59、祖父母は子どもをとててもかわいがる。                   | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 60、子どものことを祖父母が叱ることが多い。                  | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 61、子どものことで、自分の祖父母に意見されることが多い。           | そう・ちがう・どちらともいえない |
| 62、子どものことで、相手の祖父母に意見されることが多い。           | そう・ちがう・どちらともいえない |



63、家族に心の問題が起こったときに、行政機関（区役所・保健所・児童相談所など）にどんことを望みますか？

64、子供達を心も身体も健康に育てるには行政になにを望みますか？

65、家族に心の問題が起こったときに、医療機関に何を望みますか？

66、子供達を心も身体も健康に育てるために医療機関になにを望みますか？

67、家族に心の問題が起こったときに、医師に何を望みますか？

68、子供達を心も身体も健康に育てるために医師になにを望みますか？

69、家族に心の問題が起こったときに、学校に何を望みますか？

70、子供達を心も身体も健康に育てるために学校になにを望みますか？

71、そのほか何かご意見があれば、御自由にお書き下さい。





## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:小児の心身症を予防するにはどうしたら良いかを知るために平成3年1月から平成5年12月までに心身症外来(家族相談を含む)を受診した初診患者の両親にアンケート調査を行った。有効発送数は父親95,母親102であり,有効回答率は父親38(40.0%),母親54(52.9%)であった。回答結果から登校拒否,チック・夜尿,摂食障害,その他の4群にわけて(1)家族関係,(2)両親のかかわり方を比較検討した。(3)関係機関に望むことでは,設備も含めた行政機関の充実や教育の改善を望む声が多かった。